

月	時数	学習内容	評価規準				
			社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
4 (12)	1	二度の世界大戦と日本					
	<p>《歴史》第6章 二度の世界大戦と日本 【20時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、日本の国際的地位の変化や大正時代の国内の動きを通して日本国民の政治的自覚が高まったことを理解させる。</p> <p>○昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目させながら、特に経済の混乱から社会問題、軍部の台頭、戦争の勃発から敗戦までの経緯を理解させる。</p> <p>○戦時下の国民生活をなるべく身近に感じさせるとともに、戦争の惨禍にも目を向けさせ、関心や態度を養う。</p>						
	1節 第一次世界大戦と日本						
	1	1 第一次世界大戦 (p.198～199) 二つに分かれた列強 第一次世界大戦 総力戦とその結果	・戦争がもたらす悲惨な結果について関心を持っている。			・第一次世界大戦の原因・経過・結果から、戦争の概要を理解している。	
	1	2 ロシア革命 (p.200～201) 社会主義の革命 ソ連の成立 独裁と計画経済		・ロシア革命に対する日本の動きを考え、またロシア革命の様子から、自分の考えを述べている。		・ロシア革命の原因と経過、また計画経済について概要を理解している。	
	1	3 国際協調の高まり (p.202～203) ベルサイユ条約と国際連盟 国際協調 大衆の時代			・大戦後に高まったデモクラシーの動きを、歴史にアクセス「女性の選挙権のために」などから読み取っている。	・国際連盟のかかえた課題や問題点を理解している。	
	1	4 アジアの民族運動 (p.204～205) 中国の反帝国主義運動 朝鮮の独立運動 インドの民族運動	・アジアの民衆の運動を通して、民族自決の願いに関心を持ち、現代社会と比較している。	・日本の対外政策について、自分の意見を述べている。			
	1	5 大正デモクラシーと政党内閣の成立 (p.206～207) 第一次護憲運動 大正デモクラシーの思想 大戦景気と米騒動 政党内閣の成立		・大正デモクラシーの主張を現代と比較して、自分の意見や考えを述べている。		・大正デモクラシーについて、運動の概要を理解している。	
	1	6 広がる社会運動と普通選挙の実現 (p.208～209) 社会運動の広がり 女性運動の台頭 解放を求めて 男子普通選挙の実現	・女性差別からの解放などの動きについて、進んで発言しようとする態度を身に付けている。			・普通選挙の実現などについて、運動の概要を理解している。	
	1	7 新しい文化と生活 (p.210～211) 教育の広がり 大衆文化の発展 新しい思想や文化 都市の生活		・文化の大衆化について、自分の意見や考えを述べている。		・関東大震災の概要と大正期の教育と文化の特徴を理解している。	
	2節 世界恐慌と日本の中国侵略						
	1	1 世界恐慌とブロック経済 (p.212～213) 世界恐慌 ブロック経済 アメリカのニューディール		・資本主義経済のしくみを、現代と比較して考え、自分の意見を述べている。		・世界恐慌の概要と欧米諸国の対応を各国別に理解している。	
1	2 欧米の情勢とファシズム (p.214～215) ファシズム 世界恐慌と日本経済 行きづまる政党政治	・ファシズムの問題点を、現代の社会や生活と関連させて、考えようとする態度を身に付けている。			・世界の動きと関連させながら、日本の政治の流れをまとめている。		
1	3 昭和恐慌と政党内閣の危機 (p.216～217) 政党政治の行きづまり 昭和恐慌 難航する外交		・国民が政党内閣を信頼しなくなった理由を自分の言葉で述べている。		・ファシズムの台頭の様子について理解している。		
1	4 満州事変と軍部の台頭 (p.218～219) 満州事変と日本の国際的な孤立 軍部の発言力の高まり 経済の回復と重化学工業化				・満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解している。		
5 (14)	1	5 日中戦争と戦時体制 (p.220～221) 日中戦争の開始と長期化強まる軍事態勢	・当時の日本の状況と、中国の民衆の立場を理解し、公正に判断しようとする態度を身に付けている。			・国民生活が次第に統制されていった状況を理解している。	
	3節 第二次世界大戦と日本						
	1	1 第二次世界大戦の始まり (p.222～223) 第二次世界大戦の始まり 戦争の拡大 ドイツの占領政策		・日独伊三国同盟を結んだ日本の行動について、国際的な視野を踏まえて自分の意見を述べている。		・ヨーロッパで起こった戦争の原因・経過を理解している。	
1	2 太平洋戦争の開始 (p.224～225) 日本の南進 日米交渉の決裂 太平洋戦争の始まり			・戦争に対して資源や国力の差について、具体的な資料をもとに考える。	・太平洋戦争勃発のきっかけやその後の経過について、概要を理解している。		

1	3 戦時下の人々 (p. 226～227) 国民の動員 植民地と占領地 おびただし犠牲者	・当時の体験談を積極的に聞く態度が身に付いている。			・日本国内のみでなく、植民地や占領地における状況を理解している。	
1	4 戦争の終結 (p. 228～229) イタリアとドイツの降伏 空襲と沖縄戦 日本の降伏		・戦争と国民について、関心を持ち、自分の意見を述べている。		・イタリア・ドイツの降伏、沖縄戦、原爆投下などの戦争終結までの概要を理解している。	
1	【深めよう】北海道とアイヌ民族の歴史 (p. 234～235) 古代の北海道 和人との交易 松前藩とアイヌの人々 近代以降のアイヌ民族					
1	【深めよう】全ての子どもに教育を (p. 236) 石井十次 留岡幸助 政府の取り組み					
3	章のまとめ					
<p>《歴史》第7章 現代の日本と世界【14時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○第二次世界大戦後の、日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解させる。</p> <p>○高度経済成長以降から現在までの日本と世界の動きの概要を、国民の生活と関連させて理解させる。</p> <p>○国際社会における日本の役割や、地域社会における個人の取り組みなどに関心を持たせるとともに、将来の社会に期待をいだかせ、さらに社会の一員としての自覚を深めさせる。</p>						
1	現代の日本と世界					
1節 戦後日本の発展と国際社会						
1	1 占領下の日本 (p. 242～243) 敗戦後の日本 国民の苦難 占領の始まりと非軍事化	・戦後の日本の歴史と家族などの個人の歴史のかかわりについて考え、関心を持っている。			・戦後の占領政策と日本が抱えた問題について概要を理解し、その知識を身に付けている。	
1	2 民主化と日本国憲法 (p. 244～245) 民主化 日本国憲法の制定 政党政治と社会運動の復活		・憲法や民法の比較を通して戦前からの変化について考え、自分の意見を述べている。	・様々な改革に関する様々な資料を収集し、適切に選択して図表にまとめている。		
1	3 冷戦の開始と植民地の解放 (p. 246～247) 国際連合と冷戦の始まり 新中国の成立と朝鮮戦争 植民地支配の終わり	・戦後のアジアの動きに関心を持ち、アジアの中の日本という視点を持っている。			・国際連合の誕生、東西冷戦の概要について理解し、その知識を身に付けている。	
6 (16)	1	4 独立の回復と55年体制 (p. 248～249) 占領政策の転換 平和条約と安保条約 自民党長期政権と安保条約改定	・サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約について、当時の国民の考えを調べたり、家族の意見を聞いたりするなど、関心を持っている。		・占領政策の転換などの日本の歩みをアジアの動きと関連付け、概要を理解している。	
	1	5 緊張緩和と日本外交 (p. 250～251) 緊張緩和の進展 広がる日本の外交関係 沖縄の日本復帰	・沖縄の人々の感情などに関心を持ち、その苦労について調べてみようとしている。		・世界の緊張緩和の動きを、年表等を用いて、具体的に理解している。	
	1	「歴史にアクセス」日本の領土をめぐる問題とその歴史				
	1	6 日本の高度経済成長 (p. 254～255) 高度経済成長 国民生活の変化と公害 経済大国日本			・「日本の国民総生産と経済成長率の変化」のグラフから、有用な情報を適切に選択して、読み取っている。	・高度経済成長が国民の生活に大きな変化をもたらしたことを理解している。
	1	7 マスメディアと現代の文化 (p. 256～257) 戦後の文化とマスメディア テレビと高度経済成長期の文化 インターネットの発達	・マスメディアの利点・欠点について考えている。			・マスメディアの中心が、社会の発展とともに変化してきたことを理解している。
	2節 新たな時代の日本と世界					
	1	1 冷戦後の国際社会 (p. 258～259) 冷戦の終結 国際協調への動き あい次ぐ地域紛争		・日本のPKOなどの活動について、多面的・多角的に考察し、自分の意見を述べている。		・冷戦終結後から現在に至るまでの国内外の動きを理解している。
1	2 変化の中の日本 (p. 240～241) 冷戦後の日本 55年体制の終わり バブル崩壊後の経済			・国際社会の動きと、その中の日本の動きを、年表などにまとめている。	・日本の政治の流れの概要を理解している。	
1	3 持続可能な社会に向けて (p. 242～243) 日本社会の課題 日本の国際的役割 グローバル化の進展	・国際社会における日本の果たすべき役割について関心を持ち、進んで意見を述べる態度を身に付けている。	・現代社会の差別や偏見をなくすための方法や、自分たちの役割を考えている。			
3	章のまとめ					

	4	歴史のまとめ				
	<p>《公民》第1章 現代社会と私たちの生活【15時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○自分たちが生きる現代社会を概観し、学ぶことで、公民的分野への関心を高めるとともに、政治や経済、国際社会の学習の基礎的な見方や考え方を養い、これ以降の学習につなげる。</p> <p>○地理的分野、歴史的分野との関連を図るとともに、様々な条件や要因からとらえさせるなど、多面的・多角的に考えさせる。</p> <p>○様々な資料から現代日本の特色や文化の持つ意義について読み取り、現代社会をとらえる力を育てる。</p> <p>○現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られ、それらが政治、経済、国際社会に影響を与えていることについて、また、現代社会における文化の意義や影響について理解させる。</p> <p>○現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。</p>					
	1節 現代社会と私たちの生活					
	1	スーパーマーケットから現代社会を見てみよう (p.6~7)	・現代日本の社会の特色について関心を持ち、意欲的に考えようとしている。			
7 (12)	1	1 グローバル化 (p.8~9) ・グローバル化とは ・国際競争と国際分業 ・国際問題と多文化社会		・グローバル化の影響について多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめている。また、その中で自分たちがどのように生きていけばよいか考えようとしている。	・グローバル化の影響を写真や図版、統計資料などから読み取っている。	・グローバル化とはどのようなことか、また、様々な分野でグローバル化の進展がみられることを理解している。
	1	2 情報化 (p.10~11) ・情報化とは ・情報化による社会の変化 ・情報社会で注意すべきこと		・情報化がもたらす便利さと問題点について多面的・多角的に考察している。	・情報化による社会変化を写真や統計資料から読み取ったり、聞き取り調査から収集したりしている。	・現代は情報社会であること、また、情報化により社会がどのように変わったかを理解している。
	1	3 少子高齢化 (p.12~13) ・少子高齢化とは ・多様化する家族 ・安心社会を目指して		・少子高齢化の影響について多面的・多角的に考察している。また、課題の解決に向けてどのようなことが必要かを考えている。	・少子高齢化の影響を統計資料などの推移から読み取ったり、将来について予測したりしている。	・日本が少子高齢社会であること、また、少子高齢化は日本社会や私たちの社会生活に影響を与えていることなどについて理解している。
	1	4 持続可能な社会に向けて (p.14~15) ・持続可能な社会とは ・東日本大震災と人々のつながり ・私たちが創る社会	・「持続可能な社会」の考え方や「社会参画」についての関心を持ち、これからの学習へ意欲を高めているか。			・「持続可能な社会」という考え方が、将来の展望に立って現在の生活の在り方を見直すものであること理解している。
	2節 私たちの生活と文化					
	1	1 私たちの生活と文化の役割 (p.16~17) ・私たちの生活と文化 ・科学・宗教・芸術 ・文化の役割と課題	・言葉やあいさつ、食習慣など身近な文化に関心を持ち、調べている。	・文化の意義について、負の面も含め、多面的に考えようとしている。		
	1	2 暮らしに生きる伝統文化 (p.18~19) ・伝統文化とは ・日本文化の地域的多様性 ・伝統文化の継承と保存		・日本の伝統文化が日々の暮らしの中で、ものの見方や考え方に影響していることを多面的、多角的に考察している。	・伝統文化を保存する人々や団体、公的な活動について調べ、発表しようとしている。	・歴史的分野の学習を活かして、日本の伝統文化が時代や環境の変化などによって変容したことを理解している。
	1	3 多文化共生を目指して (p.20~21) ・世界に広がる日本文化 ・日本の中の外国文化 ・多文化共生と異文化理解	・具体的な事例をもとに、多文化共生を実現するためには異文化理解が必要であることを、多面的・多角的に考察している。		・日本の中の外国文化について、様々な情報手段を活用して資料を取捨選択し、調べたことをわかりやすく発表している。	
	1	【深めよう】伝統文化の継承と私たち				
	3節 現代社会の見方や考え方					
	1	1 社会集団の中で生きる私たち (p.24~25) ・家族と地域社会 ・社会的存在としての人間 ・対立と合意		・具体例を手がかりに、社会集団における対立の存在に気付くとともに、合意を得るためにはどのような取組が必要かを考え、それを表現している。		・自分が所属する社会集団を挙げ、複数の社会集団の一員として生活していることに気付くとともに、人間が社会的存在であることを理解している。
	1	2 効率と公正 (p.26~27) ・みんなが納得するためには ・効率とは ・公正とは		・合意を得るためには公正の考え方が不可欠であることを理解し、その上で公正には複数の見方や考え方があることに気付く、表現している。		・具体例をもとに、時間やものなどを無駄なく利用することが効率という考え方であることを理解している。

1	3 決まりを作る目的と方法 (p.28~29) ・きまりの意義 ・権利, 義務, 責任 ・決定の仕方	・「きまりづくり」の過程を具体的に追究することにより, きまりを守るとともにきまりづくりに積極的ににかかわることの重要性に気付く。		・「きまりづくり」の例に基づき, 物事の決定の仕方やきまりの意義についての資料を収集し, 適切に選択して読み取っている。	
1	4 決まりの評価と見直し (p.30~31) ・決まりは変更できる ・決まりを評価する視点 ・共生社会を目指して		・教科書 p.29 に示された「ルールの評価表」(これまでに学んだ, 効率と公正, 権利と義務などの視点が含まれている)に基づいて例示されたきまりの評価を行い, その問題点や改善策について意見交換をしている。	・教科書 p.23・28 の資料から, 例示されたきまりの問題点を探し, 書き出している。	
8 (4)	<p>1 章のまとめ</p> <p>《公民》第2章 個人の尊重と日本国憲法【18時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○人間の尊重についての考え方を, 基本的人権を中心に, 具体的な活動などを通して意欲的に追究させるとともに, 法の意義を理解させる。</p> <p>○日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重・国民主権・平和主義)を, 社会の形成者としての立場から具体的な生活とのかかわりを通じて理解させ, 個人の尊厳と両性の本質的平等, 自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気付かせる。</p> <p>○天皇の地位と国事行為について, 国民主権とのかかわりで理解させる。</p>				
1節 人権と日本国憲法					
1	ちがいのちがいがい (p.34~35)	・具体例を通して文化や個性のちがいに気付く, 人間の尊重についての考え方への関心を高めている。	・カードの内容を自らの判断で分類するとともに, 分類の結果や理由についてグループで話し合い, 多角的・多面的に考察している。		
1	1 人権の歴史 (p.36~37) ・人権思想の成立 ・人権思想の発展と広がり ・日本の人権思想の芽生え			・人権思想の発展について, 教科書 p.34・35などを資料として活用しながら, 必要な情報を選択し, 読み取ったことを短文や図表にまとめている。	・日本国憲法の制定の意義を大日本帝国憲法とかわらせながら理解し, その知識を身に付けている。
1	2 立憲主義と日本国憲法 (p.38~39) ・憲法と立憲主義 ・国の政治の仕組み ・日本国憲法の制定			・日本国憲法の構成や施行までの年表などから, 日本国憲法内容のあらましや歴史的な意義を読み取り, 適切に表現している。	・立憲主義, 三権分の意日本国法の基本原理について理解し, その知識を身につけている。
9 (16)	3 国民主権と天皇の地位 (p.40~41) ・国民主権 ・憲法改正 ・「象徴」としての天皇	・自分たちの生活と最高法規としての憲法とのかかわりについて, 関心を高めている。			・立憲主義, 日本国憲法の基本原理, 国民主権と天皇の地位, 天皇の国事行為の内容と特色について理解し, その知識を身に付けている。
1	4 日本の平和主義 (p.42~43) ・平和主義と憲法第9条 ・日米安全保障条約 ・自衛隊と国際貢献 ・世界平和を目指して		・教科書や新聞等からわが国の安全と世界平和に関する事象を選び, その背景や解決への道筋について考察し, その過程や内容をわかりやすく表現している。		・日本国憲法に示された平和主義, 自衛隊と日米安全保障条約, 非核三原則の意義について理解し, その知識を身に付けている。
2節 人権と共生社会					
1	1 基本的人権と個人の尊重 (p.44~45) ・人権を保障するということ ・だれもが持っている人権 ・子どもの人権	・基本的人権を尊重するとはどのようなことか, 自分なりに考えたり, 友達と話し合ったりしている。			・具体例に基づいて, 基本的人権を中心とした人間の尊重の考え方を理解し, その知識を身に付けている。
1	2 平等権と共生社会 (p.46~49) ・平等に生きる権利 ・部落差別の撤廃 ・アイヌ民族への差別の撤廃 ・在日韓国・朝鮮人への差別の撤廃 ・男女平等を目指して ・障がいのある人への配慮 ・在日外国人への配慮	・具体例を通して差別の問題に関心を持ち, その現状, 背景, 解決への取組について意欲的に追究している。	・対立と合意, 効率と公正などの視点を踏まえながら, 差別をなくすために自分たちができることは何かを考え, 発言している。	・読み物資料や新聞記事などの中から差別の問題や解決への取組の現状を読み取り, それを公表したり, 短文にまとめている。	・部落差別, 民族差別, 男女共同参画, 障害のある人への配慮など, 具体的な人権課題について, その現状や改善への取組, 特に法の果たす役割を理解し, その知識を身に付けている。
1	「深めよう」共生社会と私たち (p.50~51)				

1	3 自由権 (p. 52～53) ・自由に生きる権利 ・精神の自由 ・身体の自由 ・経済活動の自由		・具体例を通して、経済活動の自由が精神の自由に比べて法律で広く制限されている理由を考え、わかりやすく表現している。		・自由権にはどのようなものがあり、それらがなぜ重要なかを理解し、その知識を身に付けている。
1	4 社会権 (p. 54～55) ・人間らしい生活を営む権利 ・生存権 ・教育を受ける権利 ・勤労の権利と労働基本権			・教科書 p.51 のコラムなどから、経済的格差の拡大と生存権とのかかわりについて読み取り、それを発表したり、要点を短文にまとめたりしている。	・社会権にはどのようなものがあり、それらがなぜ重要なかを理解し、その知識を身に付けている。
1	5 人権保障を確かなものに (p. 56～57) ・参政権 ・裁判を受ける権利 ・その他の請求権		・権利と義務の関係について考え、公共の福祉による自由権の制約は、どの程度まで許されるか、事例を通して多角的・多面的に考察し、意見交換をしたり文にまとめたりしている。		・基本的人権を確保するための権利、及び国民の義務にはどのようなものがあるかを理解し、その知識を身に付けている。
1	6. 公共の福祉と国民の義務 (p. 58～59) ・「公共の福祉」による人権の制限 ・自由権と公共の福祉 ・国民の義務		・具体的な事例を基に、公共の福祉による人権の制限はどの程度まで許されるのかについて多面的・多角的に考察し、意見交換をしたり、文章にまとめたりしている。		・国民の義務にはどのようなものがあるかを理解し、その知識を身につけている。
3節 これからの人権保障					
1	1 「新しい人権」① (p. 60～61) ・社会の変化と「新しい人権」 ・環境権 ・自己決定権 ・科学技術の発展と人権	・身近な事例を通して、社会の変化に伴って新たな人権課題が生まれてきたことに興味をもち、現状や解決の取り組みについて意欲的に追及している。			・産業や科学技術の発展に伴って主張されるようになった権利にはどのようなものがあるかを理解し、その知識を身につけている。
1	2 「新しい人権」② (p. 62～63) ・知る権利 ・プライバシーの権利 ・インターネットと人権		・インターネットの発達など情報化の進展によって、拡大した権利や新たに主張されるようになった権利について、具体的な資料をもとに多面的・多角的に考察している。		・情報化の進展にともなう人権上の課題に気づくとともに、新たに主張されるようになった権利について理解し、その知識を身につけている。
1	3 グローバル社会と人権 (p. 64～64) ・人権保障の国際的な広がり ・これからの社会と人権保障			・教科書の資料などからグローバル社会における人権上の課題と解決への努力について取り組み、短文などにまとめている。	・グローバル化の進展に伴って人権上の新たな課題が生まれてきたことに気づくとともに、国際的な人権保障がどのように行われているかを理解し、その知識を身につけている。
1	「深めよう」アイヌ民族と先住民族の権利 (p. 66～67)				
3	章のまとめ				
10 (14)	<p>《公民》第3章 現代の民主政治と社会 【23時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○身近で具体的な事例を通して政治に関心を持たせ、主権者として進んで政治にかかわっていかうとする意欲と態度を育てる。</p> <p>○議会制民主主義や住民自治の意義などについて考えさせる。また、選挙をはじめとする国民の政治参加によって、よりよい民主政治が運営されていくことに気付かせ、良識ある主権者としての政治参加の在り方について考えさせる。</p> <p>○新聞記事や統計資料などを活用し、現実の政治の動きを多面的・多角的にとらえさせる。</p> <p>○国会を中心とする日本の民主政治の仕組みのあらましや地方自治の基本的な考え方について理解させる。同時に、法の意義や法に基づく公正な裁判の保障について理解させる。</p>				
1節 現代の民主政治					
1	だれを市長に選ぶべき？ (p. 72～73)	・課題に対し、意欲的に取り組んでいる。	・市の課題を踏まえ、課題解決や将来の展望に向けて自分の考えをまとめ、発表している。	・市の課題は何かなど、的確に資料を読み取っている。	
1	1 民主主義と政治 (p. 74～75) ・政治とは ・民主主義とは ・多数決と少数意見の尊重		・民主主義の考え方が大切であることを、歴史的な経緯や合意がなされる際の効率や公正の視点から考え、適切に表現している。		・議会制民主主義において、「多数決の原理と少数意見の尊重」が必要であることを理解している。

	1	2 政治参加と選挙 (p. 76~79) ・政治参加としての選挙 ・選挙の基本原則 ・日本の選挙制度 ・選挙の課題① ・選挙の課題② ・政治参加のさまざまな方法		・選挙における課題について、有権者や立候補者、選挙制度などのさまざまな視点から考察し、その過程や結果を適切に表現している。		・選挙の意義と日本の選挙制度のあらましについて理解している。
	1	3 政党と政治 (p. 80~81) ・政党の働き ・政党政治 ・日本の政党政治	・現在の日本の政党や日本の政治のおおまかな動きや課題に関心を高めている。		・インターネットなどを活用し、各政党の政策を読み取っている。	・政党の働きや役割について、具体的な事例に基づいて理解している。
	1	4 マスメディアと世論 (p. 82~83) ・世論とマスメディア ・メディアリテラシー ・公正な世論を形成するために	・新聞を活用した学習に意欲的に参加している。		・学習課題に沿った新聞記事を選択収集し、内容を読み取っている。	
2 節 国の政治の仕組み						
	1	1 国会の地位と仕組み (p. 84~85) ・国会の地位 ・二院制 ・国会の議決と衆議院の優越 ・国会の会期		・わが国が二院制をとっていることの意義と現状における課題について、多面的・多角的に考察し、まとめている。		・国会の地位としくみ、議院制民主主義の意義について理解している。
	1	2 国会の働き (p. 86~87) ・法律の制定 ・予算の審議・議決 ・内閣総理大臣の指名 ・その他の国会の仕事			・法律の制定や予算の審議・議決がどのようにして進められるかについて図表などにまとめている。	・国会の主な仕事について理解している。
	1	3 行政の仕組みと内閣 (p. 88~89) ・行政とは ・内閣の仕事と組織 ・議院内閣制			・省庁のホームページなどを活用して内閣の地位と権限、仕事内容について調べ、わかりやすくまとめている。	・内閣総理大臣及び内閣の仕事について理解している。 ・議院内閣制の意義としくみについて、理解している。
	1	4 行政の役割と行政改革 (p. 90~91) ・行政を実行する公務員と財政 ・行政権の拡大 ・行政改革	・行政改革など、現在の行政の課題について関心を持っている。		・新聞やテレビのニュース等で行政の役割が増大したこと、一方で行政の課題もみられることを読み取っている。	
	1	5 裁判所の仕組みと働き (p. 92~93) ・社会生活と法 ・司法と裁判所 ・司法権の独立		・司法制度が、社会の秩序維持や公正な裁判の保障から重要であることを、多面的・多角的に考察している。		・法の役割と裁判所の働き、しくみについて理解している。
	1	6 裁判の種類と人権 (p. 94~95) ・民事裁判 ・刑事裁判 ・裁判と人権保障		・具体的な事例を通して、裁判における人権保障の重要性について考えている。	・日本国憲法では裁判における国民の権利がどのように認められているか読み取っている。	・裁判の種類と裁判官・検察官・弁護士の役割について、国民の立場から理解している。
	1	7 裁判員制度と司法制度改革 (p. 96~97) ・司法制度改革 ・裁判員制度 ・取り調べの可視化と被害者参加制度	・将来自分も裁判員に選ばれる可能性があることに気づき、裁判員制度に関心を持っている。	・模擬裁判の活動を通じて、資料から必要な情報を取り出したり、争点を整理したりして、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。		・司法制度改革と裁判員制度について理解している。
	1	「公民にチャレンジ」模擬裁判をやってみよう (p. 98~99)				
	1	8 三権の抑制と均衡 (p. 100~101) ・三権分立 ・三権の関係 ・違憲審査制				・三権分立のしくみと三権の関係を具体的に理解している。 ・違憲審査制の意義と性格、重要性について理解している。
1 1 (16)	3 節 地方自治と私たち					
	1	1 私たちの生活と地方自治 (p. 102~103) ・地方自治とは ・国と地方公共団体の役割 ・地方分権	・学習課題に取り組むなか、地方の政治に関心をもち、地方自治の根本は住民自治であることに気付いている。		・「地域の課題を調べる学習」において、様々な方法を用いて取り組んでいる。	・地方公共団体の仕事について国（行政）の仕事との違いに触れながら理解している。また、地方分権の考え方について理解している。
	1	2 地方自治の仕組み (p. 104~105) ・地方議会 ・首長 ・直接請求権		・なぜ直接請求権が認められているかについて、国民主権や住民自治の観点から考えている。		・地方自治のしくみを、地方議会と首長の役割を中心に理解している。
	1	3 地方財政の仕組みと課題 (p. 106~107) ・地方財政の仕組み ・地方公共団体の財政健全化		・地方財政の課題と将来の財政の在り方について、多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。	・統計資料から地方財政の歳入・歳出や歳出を読み取っている。	
	1	4 住民参加の拡大の私たち (p. 108~109) ・住民の声を生かす ・住民運動の広がり ・地域社会と私たち		・学習を振り返り、自らと政治とのかかわりについて、多面的・多角的に考察している。		・住民の政治参加の方法について、そのあらましを理解している。

1	「深めよう」東日本大震災からの復興と防災 (p. 112～113)				
1	章のまとめ				
<p>《公民》第4章 私たちの暮らしと経済【23時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○調査活動や討論、ディベート、シミュレーションなど、多様な学習活動を展開することにより、経済に対する関心を持たせるとともに、経済活動に関する諸課題について、自ら考えようとする態度を育てる。</p> <p>○統計や図、新聞などの様々な資料を読み取ったり、収集・選択した資料をもとにわかりやすくまとめ、表現したりする学習を通して、経済的事象をとらえる見方や考え方の基礎を育てる。</p> <p>○経済活動が、人間生活の維持・向上のために欠かすことのできないものであることを、身近な消費生活を通して理解させる。</p> <p>○無限で多様な人々の欲求に対して、有限な資源から財やサービスを生産するという限られた条件下で、価格を考慮して選択を行うという市場経済の基本的な考え方を理解させ、現代の生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について考えさせる。</p> <p>○国民の生活と福祉の向上を図るために、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割に気付かせ、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。</p>					
1節 消費生活と経済					
1	コンビニエンスストアの経営者になってみよう (p. 118～119)	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習に意欲的に参加し、コンビニエンスストアの出店・経営の視点から、消費者の消費行動について関心を持つことで、消費生活、経済活動への興味・関心を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動における限られた資源と選択について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営者（生産者）、消費者それぞれの立場から、コンビニエンスストア開店の諸条件について、様々な資料を収集している。 	
1	1 わたしたちの消費生活 (p. 120～121) <ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と経済活動 商品の選択 家計の収入と支出 よりよい消費生活 	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーションを通して、経済への興味・関心を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営者や消費者の立場から、コンビニエンスストアの立地について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。 		
1	2 契約と消費生活 (p. 122～123) <ul style="list-style-type: none"> 消費者主権 消費生活と契約 消費者問題の発生 		<ul style="list-style-type: none"> 消費生活が契約によって成り立っていることを、多面的・多角的に考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> 消費者問題の概要について理解し、その知識を身につけている。
1	3 消費者の権利を守るために (p. 124～125) <ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利 消費者問題への行政の対応 自立した消費者 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利とその保護の取り組みについて、多面的・多角的に考えている。 			<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利、消費者行政の役割について理解し、その知識を身につけている。
1	4 消費生活を支える流通 (p. 126～127) <ul style="list-style-type: none"> 商品が手もとに届くまで 商業の役割 流通の合理化 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な商品を例に、生産から消費までの流通経路について積極的に調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 流通の役割や流通業者が抱えている合理化の課題について多面的・多角的に考察し、生産者、消費者などそれぞれの立場から公正に判断している。 		
2節 生産と労働					
1	1 資本主義経済と企業 (p. 128～129) <ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済の仕組み 私企業と公企業 大企業と中小企業 			<ul style="list-style-type: none"> 日本の中小企業について、情報を収集し、その結果をわかりやすく発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済のしくみを理解し、その知識を身につけている。
1	2 株式会社の仕組みと企業の社会的責任 (p. 130～131) <ul style="list-style-type: none"> 株式会社の仕組み 株価の変動 企業の社会的責任 		<ul style="list-style-type: none"> 消費者、地域住民などの立場から、多面的・多角的に考え、その過程や結果を表現している。 		<ul style="list-style-type: none"> 株式会社のしくみを理解し、その知識を身につけている。
1	3 労働の意義と労働者の権利 (p. 132～133) <ul style="list-style-type: none"> 労働とは 労働者の権利 労働条件の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 労働の意義について、職場体験学習の経験などをもとに、意欲的に発表している。 			<ul style="list-style-type: none"> 労働者の権利とその権利を守る法律の整備についての知識を身につけている。
1	4 働きやすい職場を築くために (p. 134～135) <ul style="list-style-type: none"> 多様化する労働の在り方 増加する非正規労働者 外国人労働者 生きがいを求めて 		<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料から、多様化する日本社会の労働の実態について、多面的・多角的に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 増加する非正規労働者、外国人労働者の実態について、多面的・多角的な視点から資料を収集し、図表にまとめる。 	
3節 価格の働きと金融					
1	1 市場経済の仕組み (p. 136～137) <ul style="list-style-type: none"> 市場経済とは 需要と供給 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で具体的な事例を通して、商品の価格はどのように決まるのかなどについて考えることで、経済についての関心を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品の価格の変化とその理由、需要と供給の関係を多面的・多角的に考察している。 		<ul style="list-style-type: none"> 企業や個人の生産・消費といった市場経済のしくみや価格の決定、影響について理解し、その知識を身につけている。
12 (12)	1 2 価格の働き (p. 138～139) <ul style="list-style-type: none"> 市場経済における価格の変動 独占価格 公共料金 		<ul style="list-style-type: none"> 独占価格や公共料金が設けられている理由を多面的・多角的に考察している。 		<ul style="list-style-type: none"> 価格には生産資源を効率よく配分する役割があることを理解している。

	1	3 貨幣の役割と金融 (p. 140～141) ・貨幣の役割 ・お金の貸し借りと金融 ・金融の方法と働き		・生産と消費を結びつける貨幣の働きについて、過去の紙幣や硬貨などの資料から、多面的・多角的に考えている。		・金融の方法と働きを理解し、その知識を身につけている。
	1	4 私たちの生活と金融機関 (p. 142～143) ・銀行の仕組みと働き ・預金通貨 ・日本銀行の役割		・預金通貨の創造について、貯蓄や資金といった具体例を活用してその働きについて多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。		・日本銀行の役割を理解し、その知識を身につけている。
	1	5 景気と金融政策 (p. 144～145) ・景気と私たちの生活 ・日本銀行の金融政策 ・戦後の日本経済			・戦後日本の経済成長の過程を統計資料からの確によみとっている。	・景気変動が社会や生活に与える影響や金融政策の意義について理解し、その知識を身につけている。
4節 政府の役割と国民の福祉						
	1	1 私たちの生活と財政 (p. 146～147) ・財政の仕組み ・さまざまな税金 ・税金の公平性		・税金の公正な負担について、政府や納税者の立場から公正に判断している。		・財政と税制のあらましについて理解し、その知識を身に付けている。
	1	2 政府の役割と財政の課題 (p. 148～149) ・市場経済と政府 ・財政政策 ・公債の発行 ・これからの財政	・政府の経済的な役割に関心を持ち、身近な生活から事例を探し、積極的に話し合いに参加している。	・公債の発行について、納税者のさまざまな立場から公正に判断し、自分の考えを表現している。		
	1	3 社会保障の仕組み (p. 150～151) ・社会保障のおこり ・日本の社会保障制度 ・社会保障の四つの柱	・聞き取り調査を通して福祉の仕事や高齢社会について関心を持っている。	・資本主義社会における社会保障の意義について、身近な生活から考察している。		・社会保障の基本的な考え方や日本の社会保障制度の概略を理解し、その知識を身に付けている。
	1	4 少子高齢化と財政 (p. 152～153) ・少子高齢化と社会保障 ・社会保険の現在 ・福祉社会の実現に向けて	・少子高齢化社会の問題点や課題を身近な生活の事例を通して考えたり、諸外国の現状と比較して調べる。		・少子高齢化の現状について、複数の資料を様々な情報手段を使って収集している。	・介護保険制度や後期高齢者医療制度について理解し、その知識を身に付けている。
5節 これからの経済と社会						
	1	1 公害の防止と環境の保全 (p. 154～155) ・公害の発生と原因 ・公害の防止 ・新しい公害と地球環境問題 ・循環型社会に向けて	・循環型社会に向けて、各自にできることを考え、実行しようとする。	・多種多様な公害への対策や地球環境保全のために、国や地方公共団体、企業、個人などさまざまなレベルで考察している。	・地理的分野での学習を活かして、地球環境問題について説明する資料を作成している。	・公害の発生と原因、それにもなう環境汚染や自然破壊の問題について理解するとともに、環境を守ることの重要性を理解し、その知識を身につけている。
	1	2 グローバル化する日本経済 (p. 156～157) ・貿易の役割 ・為替相場 ・日本の貿易の変化	・グローバル化が進展する世界経済の中で日本の経済はどのような影響を受け、与えるかについて考えることで関心を高めている。		・日本が世界に貢献できることについて様々な情報を収集し、図表などにまとめている。	・世界金融危機と金融資本主義について調べて発表することで、理解を深めようとしている。
	1	3 豊かさと経済 (p. 158～159) ・経済成長と豊かさ ・地域経済の持続可能な発展 ・人から始まるまちづくり	・豊かな社会を形成するためには自分たちにできることを意欲的に発表する。	・本当の豊かさを多面的・多角的に考察し、擬態的な事例もとに、何が必要かを議論している。		
	1	「深めよう」公害のない社会へ				
1 (6)	1	「深めよう」貿易の自由化と日本				
	1	コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう				
	1	章のまとめ				
	《公民》第5章 地球社会と私たち 【16時間】 【単元の目標】 ○国際社会が抱える諸課題に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集・選択して多面的・多角的に考察させる。また、その解決のための国際的な努力について理解させる。 ○事実を正確にとらえ、公正に判断し、適切に表現できる能力と態度を育てる。 ○国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させる。 ○国際社会における日本の役割や在り方について考えさせる。					
	1	1 バター戦争 (p. 168～169)	・架空の事例を通して、国際社会の問題点に対する関心を高め、課題を意欲的に追及している。	・戦争の原因や影響、解決策について、既習事項や資料をもとに多面的・多角的に考察し、文章や絵を用いて考えを表現している。		
1節 国際社会の仕組み						
	1	1 国際社会における国家 (p. 170～171) ・国家とは ・国旗と国歌 ・国際社会のルール		・国家が相互に尊重し合うためにはどのようなルールが必要か、話し合っている。		・すべての国家の主権が相互に尊重されなければならないことを理解している。

	1	2 国際連合の仕組みと役割 (p.172～173) ・国際連合の目的 ・国際連合の仕組み ・国際連合の役割		・国際社会における国際連合の働きについて考え、討論などを行っている。	・国連のかかえている課題について、資料の収集と選択が適切に行われている。	・国連の目的と、その目的を実現するために国連がどのような活動をしているのかを理解し、その知識を身に付けている。
2 (12)	1	3 地域主義の動き (p.174～175) ・ヨーロッパ連合 (EU) ・世界の地域主義の動き	・地域主義の動きに日本がどのようにかわっているのかについて、関心が高まっている。			・地域主義の動きを、EU、ASEAN、APECなどの具体的な事例を通して理解し、その知識を身に付けている。
	1	4 新興国の台頭と経済格差 (p.176～177) ・グローバル化と相互依存 ・南北間の経済格差 ・新興国の台頭と南南問題		・テロ事件が起きている理由や、地域紛争を含め、戦争が各地で頻発している原因について考え、発表やまとめを行っている。		・各地の地域紛争とその解決のための取り組みに関心を持ち、国際社会の努力についての知識を身に付けている。
2節 さまざまな国際問題						
	1	1 地球環境問題 (p.178～179) ・危機的な地球環境 ・地球温暖化と気候変動 ・国際社会の取り組み ・地球環境問題の解決に向けて	・地球環境問題に関心を持ち、個人としてどのようにかわっていったらよいかを考えている。		・地球環境問題に関する資料を適切に収集し、活用している。	・環境汚染や自然破壊が地球規模の問題であり、国際的な課題となっていることに気づき、その知識を身に付けている。
	1	2 資源・エネルギー問題 (p.180～181) ・限りある資源 ・日本のエネルギー事情 ・これからの日本のエネルギー		・将来の資源・エネルギー問題について考え、発表している。	・資源・エネルギー問題に関する資料を収集し、正確に読み取り分析する力を養っている。	・環境を守る取り組みの必要性に気づき、その知識を身に付けている。
	2	3 貧困問題 (p.184～187) ・人口の急激な増加 ・世界の貧困問題 ・食料供給のかたよりと飢餓 ・途上国の子どもと女性の問題 ・貧困をなくすための取り組み ・途上国の人々の自立に向けて		・「南北問題」「南南問題」の原因と、その解決に向けての方策について考え、その結果を発表しようとしている。		・21世紀の人口増加とそれともなう食料問題を理解し、その知識を身に付けている。
	1	4 新しい戦争 (p.188～189) ・続く戦争 ・地域紛争と難民 ・テロリズム	・世界各地の紛争とその解決のための取り組みの関心を持つ。			・世界各地でテロリズムや地域紛争が発生している原因について理解している。
	1	「深めよう」パレスチナ問題と中東和平				
3節 これからの地球社会と日本						
	1	1 文化の多様性の尊重 (p.192～193) ・グローバル化の中の文化 ・文化の多様性の尊重 ・宗教や民族の多様性 ・異文化理解と国際協力	・異なる文化を尊重し、共生共存する態度が見られる。	・世界の多様な文化を尊重することが世界の平和と人類の福祉の増大につながることを多面的・多角的に考察できる。		
	1	2 日本の外交の現状と課題 (p.194～197) ・日本の平和主義外交 ・近隣諸国との関係		・近隣諸国の関係や外交上の課題について、その解決策を考えている。		・日本外交の基本的姿勢である平和主義と国際貢献、日本の領土をめぐる現状を理解し、その知識を身に付けている。
	1	3 世界とつながる日本 (p.198～199) ・経済関係の強化 ・文化交流の促進 ・世界にはおぼたく日本人	・世界と日本のつながりに関心を持ち、どうすればつながりを強めていくことができるかを考える。			日本は様々な地域とつながっていることを考えることができる。
	1	4 世界平和のために (p.200～201) ・二つの平和 ・戦争のない世界を目指して ・より良い地球社会を目指して		・戦争のない世界、よりよい地球社会を目指すために、日本や私たちにできることを考える。		2つの平和や核廃絶や軍縮の取り組み、人間の安全保障について理解し、その知識を身に付けている。
3 (6)	2	章のまとめ				
	<p>《公民》終章 よりよい社会をめざして【5時間】</p> <p>【単元の目標】</p> <p>○持続可能な社会を形成するために解決すべき課題を見だし、それを意欲的に探究させながら、自分の考えをレポートとしてまとめさせる。</p> <p>○持続可能な社会を形成するために、自分たちに何ができるかを考えさせることを通して、社会参画するための手がかりを得させる。</p> <p>○レポートを作成する経験を通して、科学的な探究の過程を論理的に表現することができるようにする。</p> <p>○持続可能な社会を形成するために解決すべき課題を探究することを通して、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を身に付けさせる。</p>					
	1	1 社会科の学びを持続可能な社会につなげる (p.205～206)	・持続可能な社会の形成に対する関心を高めている。			・平和、人権、環境、貧困などと関連した課題を解決することが、持続可能な社会の形成に必要なことを理解し、その課題に関する知識を身に付けている。
	1	2 持続可能な社会を実現するための探究の方法 (p.207)				・レポート作成の流れを理解し、その知識を身に付けている。

1	3 レポートの作成 (p. 208～211)		<ul style="list-style-type: none"> ・取捨選択した資料を活用しながら、レポート作成の計画を立てている。 ・友人から意見をもらったり、友人の発表と自分の発表を比較したりしながら、テーマの見直しを行っている。 ・「テーマの設定」「資料の収集と読み取り」「テーマの見直し」「レポートの執筆」の科学的な探究の過程をたどり、レポートを執筆している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の課題の中から、興味・関心を持ったテーマを適切に設定している。 ・これまでの社会科の学習を振り返りながら、持続可能な社会の形成を探究する上で適切なテーマを設定している。 ・テーマに適った調べ方を選択し、適切に資料を収集している。 ・収集した資料を読み取り、レポート作成に必要な資料を取捨選択している。 ・プレゼンテーションを通して、レポートの内容を相手に適切に説明している。 	
1	4 探究を社会参画につなげる (p. 212)	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を形成するために活動するさまざまな人たちの生き方に関心を持とうとしている。 ・「公民」としての在り方生き方を主体的に考えようとしている。 			